

株式会社アーレスティ

2015年3月期 決算説明資料



2015年5月29日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2015年3月期決算概況
- ◆ 今期の見通し
- ◆ 10年ビジョン、中期目標

TOPICS

■2013年

- 8 月 合肥アーレスティ東風日産乗用車公司へエンジンブロック量産納入開始
- 9 月 アーレスティインディア工場拡張工事着工
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工
本社を愛知県豊橋市に移転

■2014年

- 3 月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
公募増資を実施
- 4 月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6 月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7 月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9 月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイルミントン増築工事着工

■2015年

- 3 月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事着工
- 6月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工予定
- 10月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事竣工予定

2015年3月期決算概況



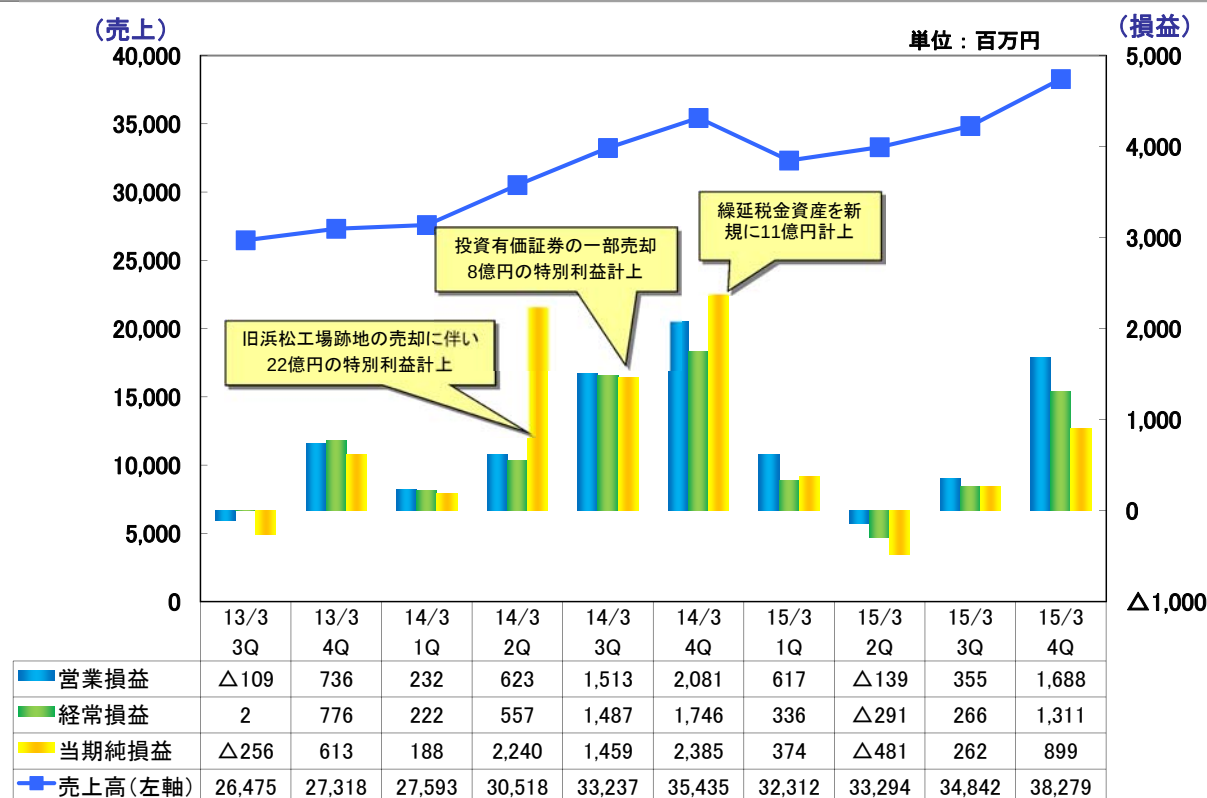
2015年3月期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2014年3月期		2015年3月期		増減	
売上高	126,783	100%	138,727	100%	11,944	9.4%
営業利益	4,449	3.5%	2,521	1.8%	△1,928	△43.3%
経常利益	4,012	3.2%	1,622	1.2%	△2,390	△59.6%
当期純利益	6,272	4.9%	1,054	0.7%	△5,218	△83.2%
EPS	287.10		40.85		△246.25	

- ◆ 売上高: 国内では、消費増税の影響により販売量は前期を下回ったものの、地金市況影響等により増加、海外では受注増と為替影響等により増収となり、売上高は1,387億円(前期比9.4%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 主にダイカストアジアの収益改善効果があったものの、ダイカスト北米の生産性低下に伴う収益悪化、ダイカスト日本の販売量減による減益により、営業利益は25億円(前期比43.3%減)となった。
- ◆ 経常利益: 営業外では為替差益の減少(前期474百万円の差益、当期50百万円の差損)、支払利息の増加(2億円増)等により、経常利益は16億円(前期比59.6%減)となった。
- ◆ 当期純利益: 前期は固定資産売却益22.8億円(旧浜松工場跡地)、投資有価証券売却益8.3億円を計上。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

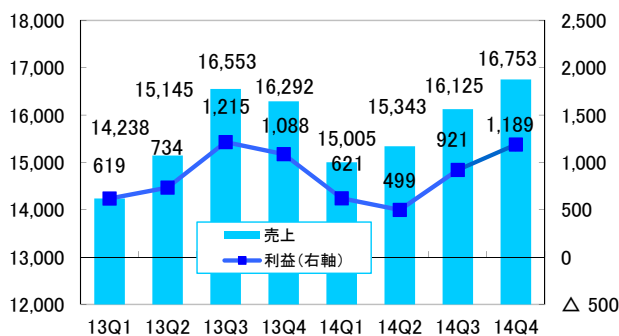
(単位：百万円)

		2014年3月期	2015年3月期	増減
日本	売上高	62,228 100%	63,226 100%	998 1.6%
	セグメント損益	3,656 5.9%	3,230 5.1%	△426 △11.6%
北米	売上高	33,906 100%	40,654 100%	6,748 19.9%
	セグメント損益	509 1.5%	△1,295 △3.2%	△1,804 —
アジア	売上高	24,143 100%	27,584 100%	3,441 14.3%
	セグメント損益	180 0.7%	662 2.4%	482 268.1%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2014/3期:48.3% ⇒ 2015/3期上期:51.4% ⇒ 2015/3期:51.9%
 ※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

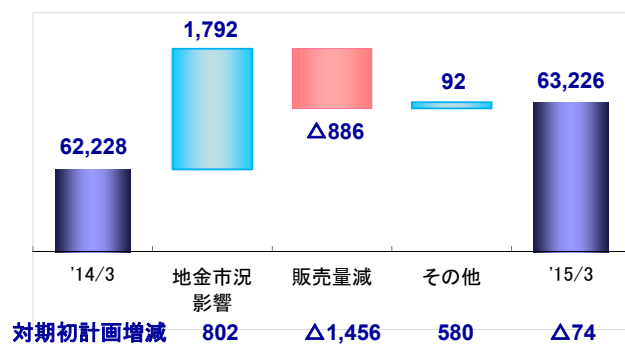
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



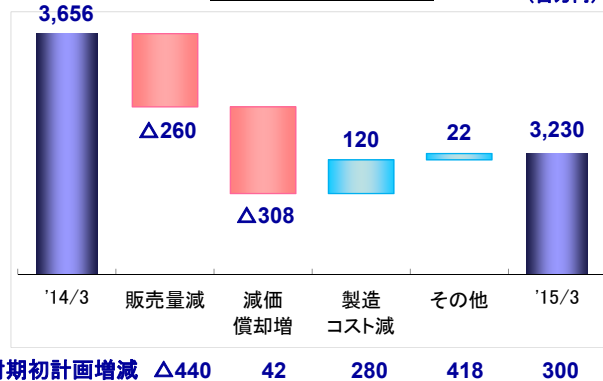
消費税増税の反動による需要減(前年下期比)により販売量は減少するも、前期比では地金市況の影響も加わり、売上高は増加。販売量は四半期ごとに増加傾向。

セグメント利益は、販売量減の影響、減価償却費の増加影響等により、前期比11.6%減。下期は上期水準よりも販売量が増加し、収益は改善。

売上高増減要因 (百万円)

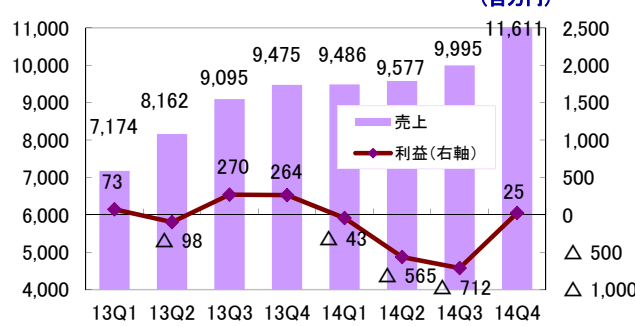


セグメント損益増減要因 (百万円)

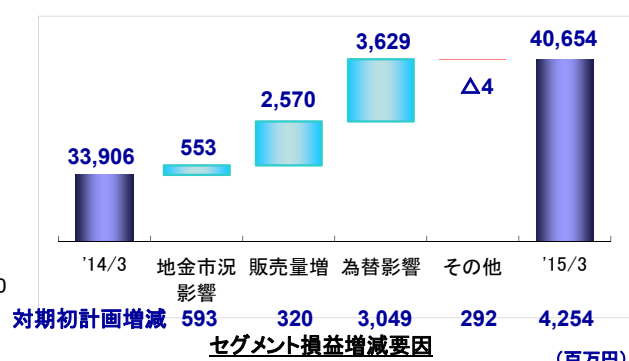


ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移



売上高増減要因



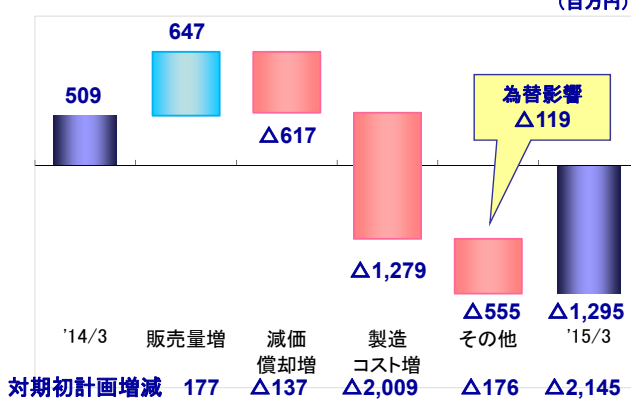
アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加するも、増産対応の遅れに伴う生産性の低下による費用増等により収益悪化。下期での改善活動で3月には単月黒字化まで改善。

メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は増加。製造コストの改善が進み、収益改善。

北米の収益は悪化したものの、アメリカの収益改善のプロジェクト活動の成果により底を脱し回復中。

※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(14/3→15/3)
米\$ 99.99→110.03
メ\$ (米\$) 97.11→106.37



北米(米国工場)の生産性改善状況

主要な製品(鋳造、加工共に影響の大きい10製品を対象)について、個別に問題点に対する改善策を実施。

生産性を改善し、正規の5日稼働へ

- 個々に進捗の違いはあるものの、全体としてほぼ計画通りに生産性改善が進捗しており、加工工程で一部7日稼働の製品があるが、5日稼働の比率が高まった。これに伴い人員も計画通りに削減。
- 特便による製品納入費用は大幅に削減し、通常レベルに。

作業者のスキル向上教育

設備保全の計画的実施とトレーナーを含めた技術者の育成

- 計画に従って育成を実施(概ね計画通りに実施)。
- 設備保全はクリスマス休暇他で計画的に実施。

鋳造機の新設(2台)と動線の改善(建屋増築)・・・16/3期に寄与

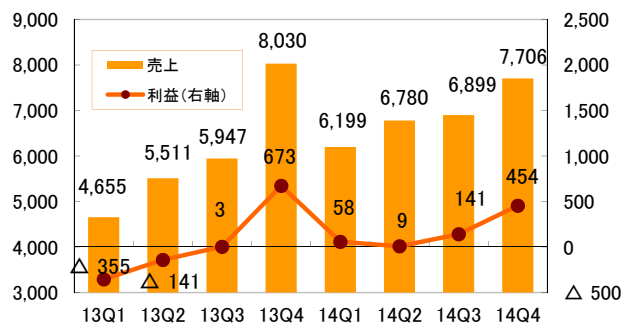
- 建屋増築はほぼ完成(竣工は6月)し、現在一部の設備を設置中。

改善プロジェクト活動は概ね計画どおりに進捗し、3月単月で黒字化を達成。プロジェクト活動は3月末をもって終了(4月以降は通常の改善活動で更なる生産性向上を目指す)。

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移

(百万円)



中国：日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻りつつあった中、当初予想を大幅に下回る(広州は前期比減収)ものの、前期比では売上高は増加。操業4年目の合肥は前期4Qから黒字を継続。製造コスト削減効果等により前期比増益。

インド：売上高は当初想定を下回り、販売量は前期横ばい。この影響により固定費負担が重くなり、収益は前期よりも悪化。

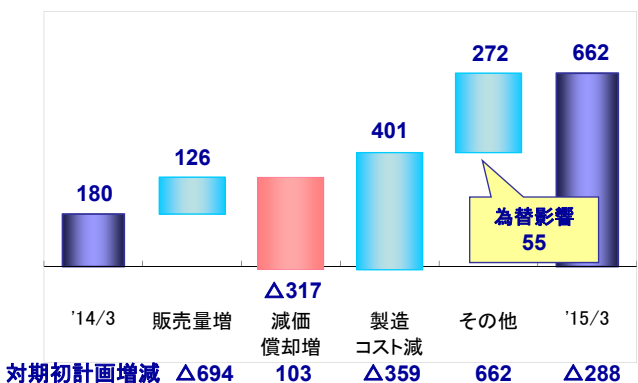
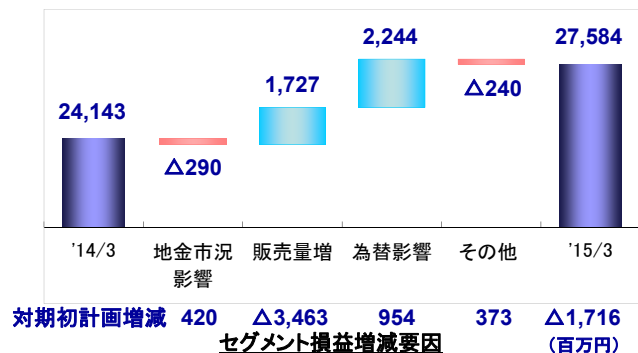
アジアの収益は改善。

※中国1-12月
インド4-3月

平均レート(14/3→15/3)
人民元 15.80→17.26
インドルピー 1.67→1.81

売上高増減要因

(百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位：百万円)

		2014年3月期	2015年3月期	増減
アルミニウム事業	売上	4,657 100%	5,015 100%	358 7.7%
	セグメント損益	△6 △0.1%	5 0.1%	11 -
完成品事業	売上	1,848 100%	2,245 100%	397 21.5%
	セグメント損益	66 3.6%	83 3.7%	17 25.5%

アルミニウム事業：受注量が前期比ほぼ横ばいで推移したものの、販売単価がアップしたことにより、売上高は7.7%増。セグメント損益は、原価低減等の影響により5百万円となった。

完成品事業：主要販売先である通信会社のデータセンター向け物件や半導体関連企業のクリーンルーム物件の受注増により売上高は21.5%増。セグメント利益は増収効果により25.5%増となった。

貸借対照表

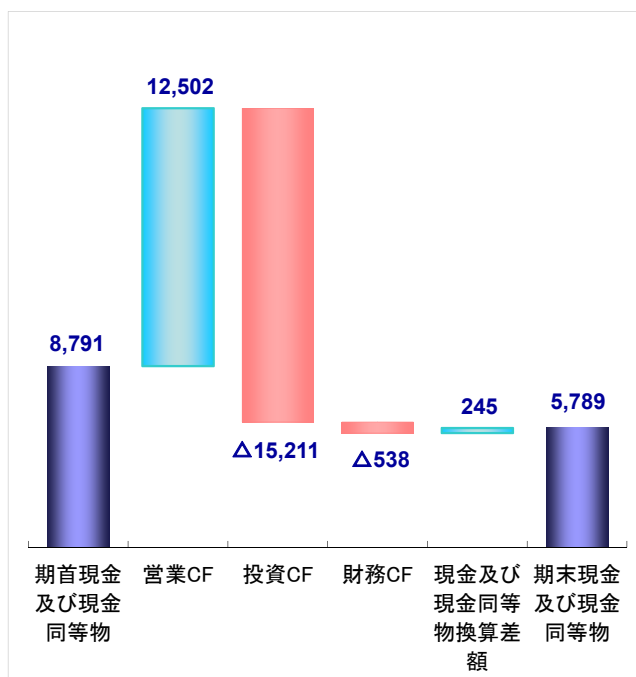
(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	増減
流動資産	48,920	48,464	△456
現預金	8,791	5,885	△2,906
売上債権	25,924	25,679	△245
棚卸資産	10,536	12,602	2,066
固定資産	88,313	100,367	12,054
有形固定資産	78,208	88,133	9,925
資産合計	137,233	148,831	11,598
負債合計	82,641	86,728	4,087
仕入債務	19,714	20,936	1,222
長短借入金	43,014	46,838	3,824
純資産合計	54,592	62,103	7,511
自己資本比率	39.7	41.7	2.0

- ◆ 増資により一時的に増加した現預金が減少
- ◆ 中国広州の売上減少により売上債権が減少
- ◆ 海外での設備投資及び為替影響により有形固定資産が増加
- ◆ 資産合計の増減の為替影響は113億円
- ◆ 為替影響(40億円)により借入金が増加
- ◆ 為替換算調整勘定の増加等により純資産が増加

キャッシュ・フロー

(百万円)



営業CF	12,502
税金等調整前当期純利益	1,651
減価償却費	12,956
売上債権の減少	1,555
たな卸資産の増加	△ 1,143
仕入債務の増加	428
未払消費税等の減少	△ 252
法人税等の支払額	△ 2,144
その他	△ 549
投資CF	△ 15,211
有形固定資産の取得	△ 15,143
有形固定資産の売却	205
その他	△ 273
財務CF	△ 538
短期借入金の減少	△ 1,242
長期借入金の増加	1,233
配当金の支払	△ 308
その他	△ 220

- ◆ 海外を中心に営業CFを上回る設備投資を実施。
- ◆ 不足分を主に現預金('14/3月に実施した公募増資により一時的に増加していた)の減少で賄う。

今期の見通し



2016年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2015年3月期		2016年3月期 計画		増減	
売上高	138,727	100%	146,200	100%	7,473	7.3%
営業利益	2,521	1.8%	4,250	2.9%	1,729	68.6%
経常利益	1,622	1.2%	3,300	2.3%	1,678	103.4%
当期純利益	1,054	0.8%	2,000	1.4%	946	89.6%
EPS	40.85		77.45		36.60	

- ◆ 売上高: 国内は円安による国内生産増が一部で期待されるものの、消費増税後の本格的な需要回復は遅れると見込まれる。海外は北米で販売量増と為替影響により増加が見込まれ、アジアでは中国の販売量動向が懸念されるが、中国全体としては販売量増と為替影響により増加する見込みであることから、連結売上高は前期比74億円の増加を予想。
- ◆ 営業利益: 国内は販売量減等により減益、アジアは生産能力を下回る販売量が見込まれることから減益を予想するも、北米での収益改善により、連結では前期比17億円増を予想。
- ◆ 経常利益: 営業利益の増益に伴い増益を予想。
- ◆ 当期純利益: 経常利益の増益に伴い増益を予想。

前提為替レート: 115円/米ドル、19円/人民元、1.9円/インドルピー

2016年3月期業績予想

(単位: 百万円)

	2015年3月期	2016年3月期 計画	増減	増減率
売上高	138,727	146,200	7,473	7.3%
ダイカスト日本	63,226	62,600	△626	△1.0%
ダイカスト北米	40,654	44,500	3,846	9.5%
ダイカストアジア	27,584	32,100	4,516	16.4%
アルミニウム	5,015	5,200	185	3.7%
完成品	2,245	1,800	△445	△19.8%
営業利益	2,521	4,250	1,729	68.6%
ダイカスト日本	3,230	2,200	△1,030	△31.9%
ダイカスト北米	△1,295	1,400	2,695	—
ダイカストアジア	662	500	△162	△24.5%
アルミニウム	5	100	95	—
完成品	83	50	△33	△39.8%
消去または全社	△165	—	165	—
経常利益	1,622	3,300	1,678	103.4%
当期純利益	1,054	2,000	946	89.6%

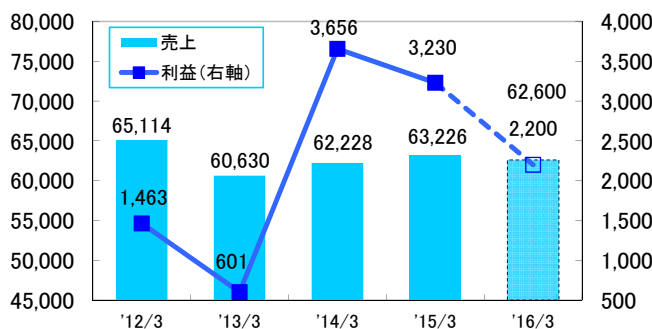
ダイカストセグメントの海外売上高比率 2015/3月期:51.9% ⇒ 2016/3月期:55.0%



17

ダイカスト日本

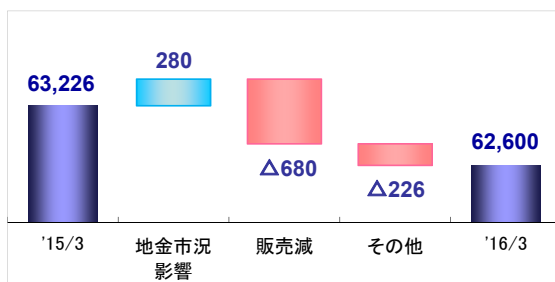
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



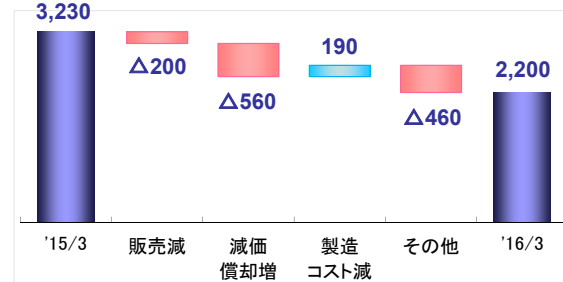
売上高: 円安による国内生産増が一部で期待されるものの、消費増税後の本格的な需要回復は遅れると見込まれ、減収を予想。

利益: 減収の影響、減価償却費の増加、分割回収金型の利益減少等が見込まれることから減益を予想。

売上高増減予測 (百万円)



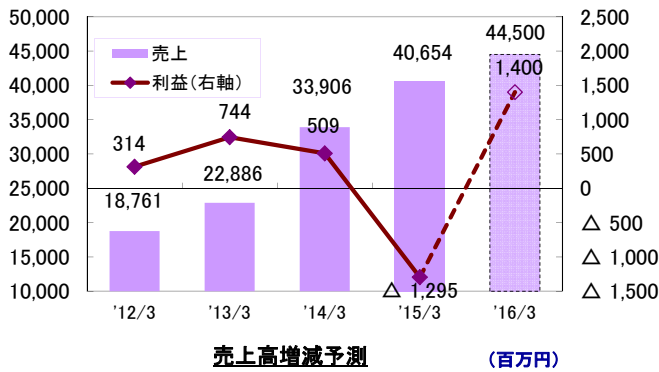
セグメント損益増減予測 (百万円)



18

ダイカスト北米

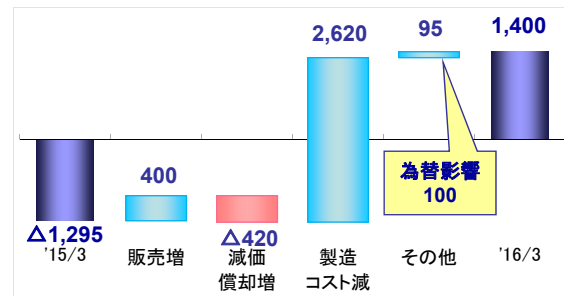
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



売上高: 前期の伸びよりも小さいものの販売量増加及び為替影響により売上高は増加する見込み。

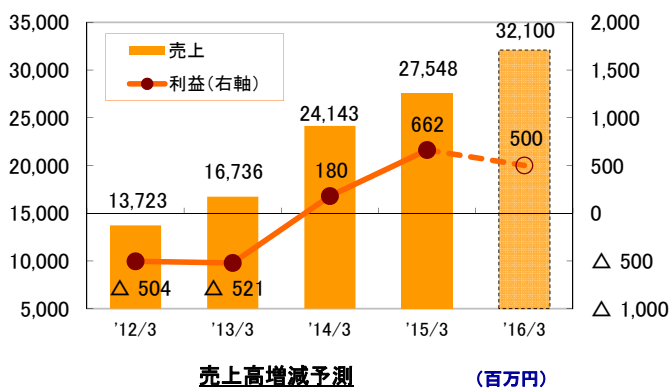
利益: 減価償却費の増加があるものの、アメリカ工場の生産性改善に伴う収益回復及びメキシコ工場の増収効果と生産性改善効果によりV字回復を予想。

セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカストアジア

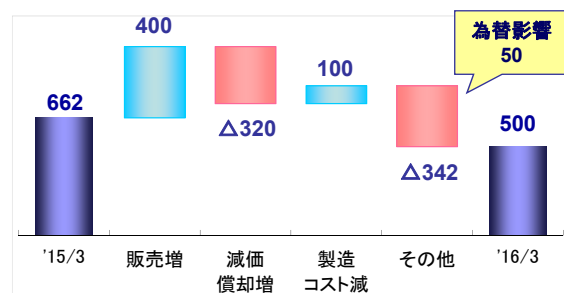
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



売上高: 生産能力を満たさないものの、販売量の増加、為替影響により、中国、インド共に売上高は増加。

利益: 増収効果はあるものの、減価償却費の増加等により減益を見込む。インドは増収効果等により収益性が改善し損失が縮小する見込み。

セグメント損益増減予測 (百万円)



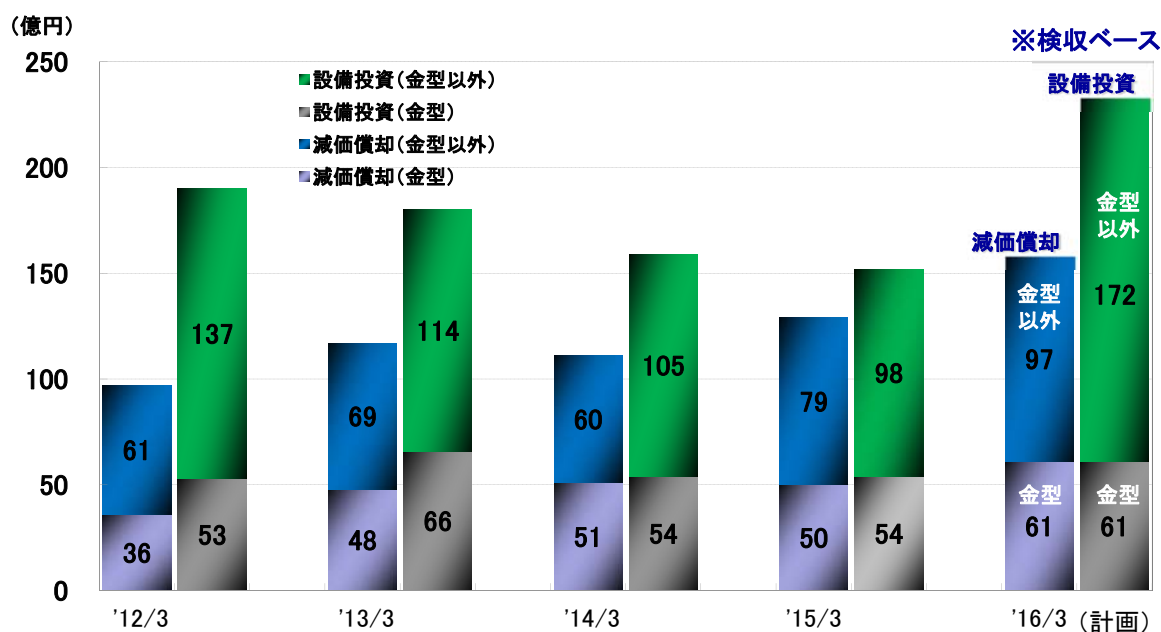
配当の状況

(単位:円)	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	6	3	14	12	12
中間配当	3	3	8	6	6
期末配当	3	—	6	6	6
一株当たり純損益(連結)	65.87	△ 7.76	287.10	40.85	77.45
配当性向(連結)	9.1%	—	4.9%	29.4%	15.5%

- ◆ 2015年3月期は、期初計画の業績を達成できなかったものの、期初予測どおり年間12円の配当を実施
- ◆ 2016年3月期は、年間12円の配当を予想(配当性向は当面15%程度を目安に)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

- ◆ 国内外ダイカスト事業の能力拡充等の設備投資を計画



※15/3に計画した設備投資が遅れていること、海外ダイカスト拠点の設備投資は継続しつつ、国内の設備投資を増加させることから、16/3期は大幅な増加を計画。

10年ビジョン 中期目標(2017年3月期)



当社を取り巻く環境

グローバル化と外注化の流れを掴み、海外事業を拡大

➤ 世界の自動車生産は新興国を中心に増加

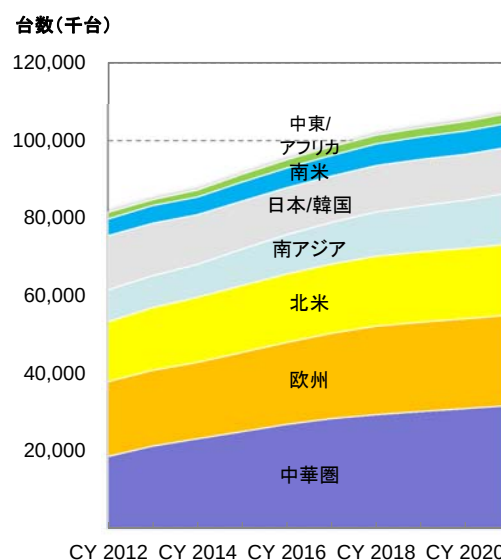
- ✓ グローバルで2000万台強増加
(日本の生産台数の約2倍に相当する需要増)

➤ 外注化への流れ

- ✓ 自動車生産台数が増えるなか、自動車メーカーの設備投資の優先順位からダイカストは外注化へ
- ✓ 機械加工までを外注化
中国で日産のエンジンブロックを量産

➤ グローバルに展開するダイカストメーカーは多くない

- ✓ 当社の位置付け: 事業規模・技術力・開発力は業界トップ企業の一つ



CY 2012 CY 2014 CY 2016 CY 2018 CY 2020
世界ライトビークル生産台数予測
©2014 IHS Inc. All rights reserved

当社の強み

▶ 技術力、グローバル生産拠点展開

大型の高難易度製品(例えば、エンジンブロック、ミッションケース等)を国内外で供給できる

▶ ダイカストの設計から生産までの総合的な技術開発力

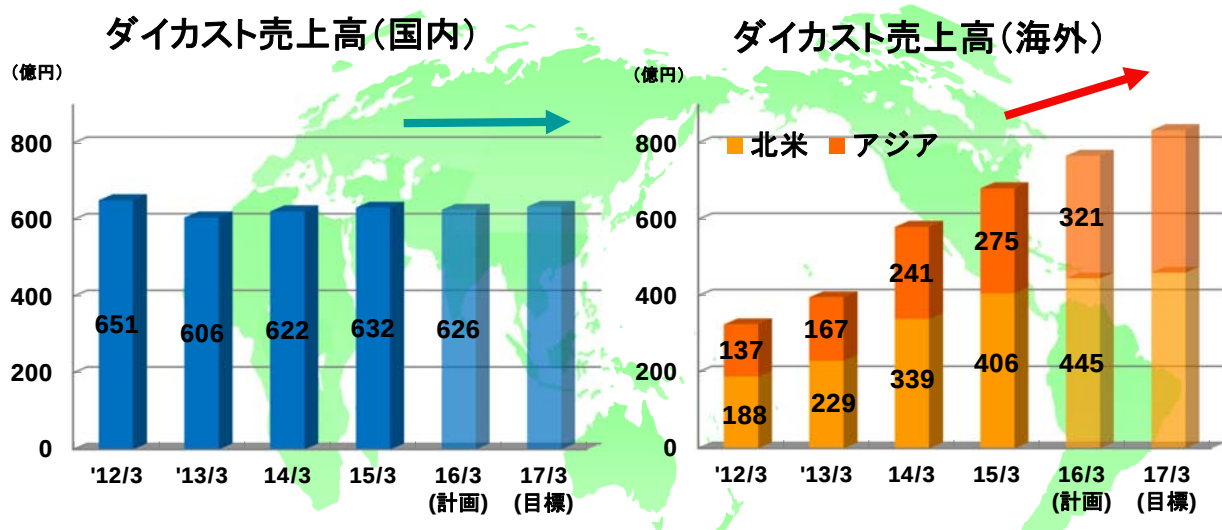
開発段階からお客様と品質・生産性等のつくり込みができる

▶ 一気通貫生産体制

原材料生産・金型製作・鋳造・機械加工まで対応できる

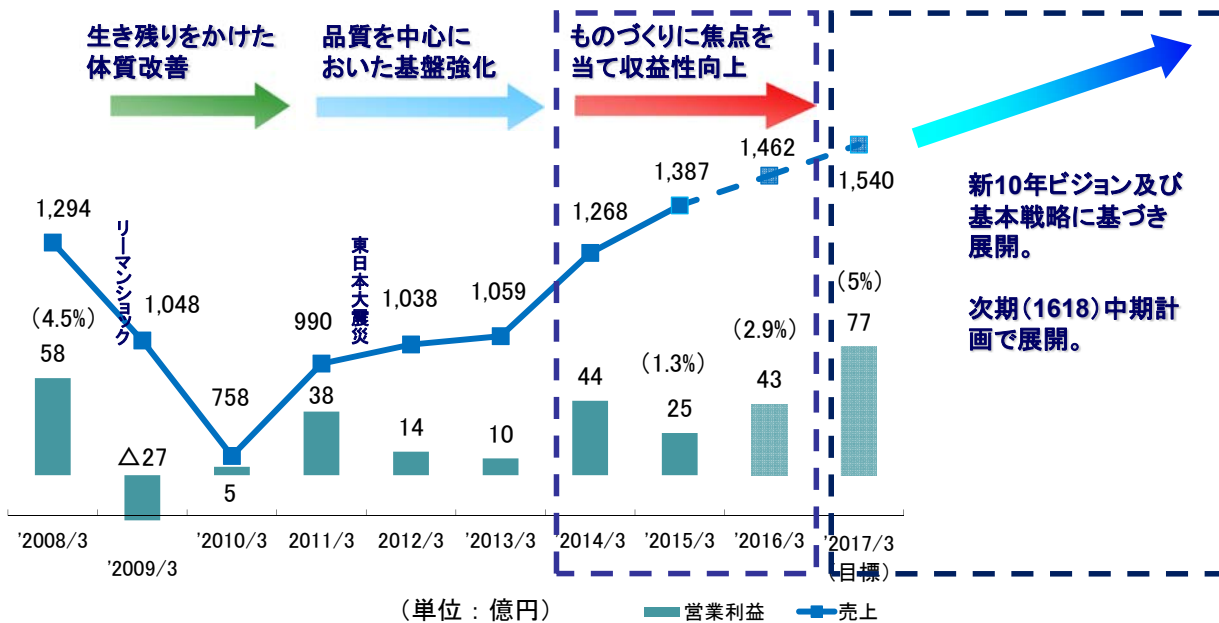
ダイカスト事業売上高動向

海外でのさらなる売上の拡大



- 新10年ビジョンに基づき、顧客からの信頼を究めつつ、安定した業績を上げながら持続的成長を目指す。
- 日 本: 中期的には国内需要は縮小の方向であるが、積極的な営業活動により一定の売上高と収益を確保。
- 北 米: 需要拡大に対応した能力拡充投資を行いつつ、収益性を向上させていく。
- アジア: 生産性改善等によりインドの黒字化を図り、中国の需要拡大に対応しつつ収益性を向上させていく。

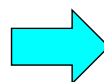
これまでの推移と中長期の方向性



- ✓ グローバル需要拡大に対応し、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業を拡大
- ✓ ものづくりに焦点を当てた1315中期計画の推進(新10年ビジョンの基本戦略を一部取り入れ)
- ✓ 新10年ビジョン及び基本戦略に基づく中期計画は、次期1618中期計画で本格的に展開

10年ビジョン

2012年版



2015年版

ダイカストを核としたグローバルTOP企業
「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」



信頼を究めよう 2025

ありたい姿

お客様からの信頼No.1

グローバルで車の軽量化に役立つ

売上高2000億円+α

足元をしっかり見つめて、
お客様の信頼と期待に応え、
持続的成長を目指す。

1315中期計画

中期経営計画2013-2015年

項目	実施事項
最善なものづくりの追求と共有	現場と設計が一体となったものづくりの再構築、全拠点で同一の品質・生産性の実現、生産性の向上等の施策を展開
ものづくりの現場で活かす技術開発	ものづくりを究めるための技術ロードマップにもとづく施策、パワートレイン以外の市場の開拓等の施策を展開
ものづくりを支える人づくり	実践に裏づけされたスキルを持つ人づくり、3現・2原に基づいた活動ができる技術者の育成等の施策を展開
健全な利益追求	収益力向上による持続的な企業成長と成長市場への展開、業務の効率化、投資効率の高い加工設備構想の実現、工程別・課別コストの見える化による収益管理レベルの向上等の施策を展開

上記実施事項に大きな違いはないが、新10年ビジョンの基本戦略の一部を取り入れ。新10年ビジョンに基づく基本戦略の展開は、次期中期(16-18)計画で。

2017年3月期 目標数値

	2015/3期 実績	2016/3期 予想	従来目標 (2017/3期) 2014/5/9公表	新たな目標 (2017/3期) 2015/5/8公表
売上高	1,387 億円	1,462 億円	1,430 億円	1,540 億円
営業利益率	1.8 %	2.9 %	5.0 %	5.0 %
ROA (総資産純利益率)	0.7 %	—	3.0 %	3.0 %
ROE (株主資本当期純利益率)	1.8 %	—	7.0 %	7.0 %

売上高の目標値を変更

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。